

1985.9.30 発行

No. 81	あごられ幌連絡先	通信担当
	細田英理子	細谷洋子

### 今月のながみ

9月例会報告	-----1	<Letter>あごられ幌三好さんから
10月例会案内	-----2	<集会参加記>
小沢蓮子 県議会だよりから	-----3	ナイロビ報告会 -----5
<Letter>花崎皋平さんから	-----3	俵萌子講演会 -----6
		私が読んだ本 -----7
		情報報 -----8

## "あごられ幌10周年フェスティバル"に向けて 準備会

9/21付道新、9/22付朝日新聞、ごらん  
になりましたか。

9月例会は、10周年記念フェスティバル"女が  
変わるとき 社会が変わる"の最終全体うち合  
わせだったのですが、両紙の写真でもお判り  
のように、出席者9名の寂しいうち合わせとな  
りました。(カメラ・アングルのおかげで、それ程  
寂しくは見えなかったかな。) が、10月5日まで  
あと1ヶ月足らずとあっては、めげてもいられま  
せん。プログラム、当日の役割分担、いろいろバザ  
ールの出店品目、講演後のディスカッションの方  
法等について話し合いました。

### ▶ 7時7分

- 2:10 ~ 2:30 挨拶、ショート・ショー
- ~ 4:00 講演
- ~ 4:15 休憩
- ~ 5:15 ディスカッション
- ~ 5:45 ショー"自らを表す"

## 9月 例会報告

▶ 当日の集合  
時刻は 12:30。

婦人文化センター

2階ロビーです。バザールの準備や飾  
り付け等、今までの講演集会より、会場設  
営に時間がかかります。できるだけ遅れ  
ないで集合してください。

### ▶ いろいろバザール

- ・コーヒーコーナー ~ サンドイッチ、おにぎり、パン  
ンドケーキ、コーヒー、ジュース

分担して作って、会場に持参することになり  
ました。人数が少ないので、タレ幕を書いた  
り、ヨーの準備をしたりする他に、この準備  
も負担しています。今からでも、協力でき  
る方、岡本さん(663-3512)までTELくだ  
さい。

- ・手作りコーナー ~ 箱もの、ティッシュケース  
自分で値札をつけ、売り上の一部をくあ

ごり>にカンパして頂く他は 売り上はその人のものになります。  
今からでも出品してください人、大野さん(665-2651)までTELを。  
・産直野菜～夢屋の丹藤さんが協力してくれます。  
・MIZUのハーベン

#### ► ショー“自らを表す”

<第一場>女の服装の歴史を、まとめてます。

<第二場>つま先の細い靴を長い間はき続けているところ外反拇指のことが、先日、新聞にも出ていました。女の自然、人間らしさを阻む女性美を支えてきたコレセット、靴etc.をとりあげ、人間らしく生きる女のファッションへの問題提起をします。

<第三場>そして、私たちが選んだ、私たちが着たい服のファッション・ショー。



10月  
例会  
案内

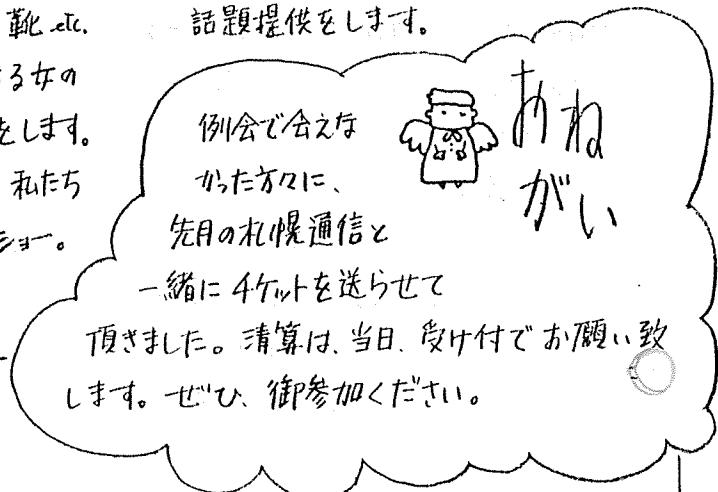
10月13日(日) 6:00～

喫茶ミドリ(231-7627)

フェスティバル(祭)のフィーラーを飾るにふさわしい華やかさ、賑やかさが欲しいと、担当の芳恵さんは、心を砕いています。今とて3.出演者は30代ばかり5~6人。もうと出演者が欲しいなあ。(20代、40代も)  
せひ、芳恵さん(563-6917)にTELを。

#### ► ディスカッション

10キルディスカッション形式ではなく、会場と小沢遼子さんとの交流をひき出す形の話題提供者を5人決めました。それぞれの立場から、小沢遼子さんと語り合いたいことを練って話題提供をします。



・10周年記念フェスティバル  
「女が変わると、社会が変わる」反省会  
<司会> 松平 明美

・『おいら』100号「均等法・派遣法そして…」読書会 Part1  
“均等法でどう変わる”を読んで、均等法成立の影響と対策、有効なものにする手立てについて考えたいと思ひます。  
<レポーター> 高橋 芳恵

# 小沢遼子の 県議会報告 No.10より

「幸せの向こう側から  
目をそらさず」にいきます

○国民意識調査結果によれば日本人の多く  
がいまの暮らしに「満足している」「まあまあ満足」と  
答えているそうですが、その一方でサラ金問題は  
あとを絶たないし、有利な利権をあてこんで豊  
田商事に大金をだましとられる人々もいて、その大  
半が老人であることから、結局、先行きへの不安が  
豊田商事へ走らせたのではないかという説もあります。

中学生、高校生退者の増加、中学は出  
たけれど「ただ」プログラミングしている「無業者」とい  
う新語で呼ばれる子どもたちも増えていると  
○われ、「国民大多数が満足」している豊か  
な社会には、一皮む

けば何か起るか  
わからない不気味さ  
かひそんでいるよ  
な気がします。

「豊かで安定した」  
日本を一應はみとめて  
も、なあ底にひたひた  
とたたえられるその不  
気味さから目をそらさ

— 私たちの10周年記念フェスティバル  
に、駆けつけてくださる小沢遼子さん  
は、浦和で、こまめに県議会報  
告を出しています。政治家としての  
小沢さんのアプローチを、報告から  
御紹介します。 —

すでに行こうとおられたので考えてあります。

「指纹押捺は外国人ダメです

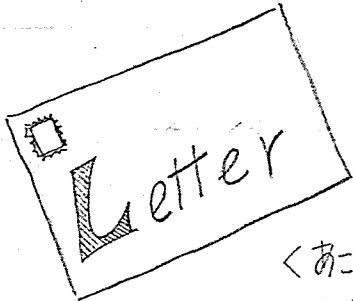
・畠知事の見直し申し入れに指手。

あるあばあさんは、何十年も日本で商売をしてい  
て大きな店を構えています。(略)家の目と鼻の先に  
交番があり、その横をまがったところにある銭湯か  
ら出でると若い警官が「あばあちゃん、登録証  
持ってるかい」と袖をひく。「家にあいてあるよ。  
お湯に行ったり帰りだもの」と答えると「じゃあ迎えが  
来るまで帰せないよ」と冬のさなかでも交番につ  
れこまれ、家人が呼ばれて登録証片手に始末  
書を書くまで帰してもらえないという経験を何度も  
しているそうです。(後略)

~~~~~ Letter 花崎皋平さんから ~~~~~~

前略、いつも「あごら」ニュースありがとうございます。必ず興味  
ふかく拝見しています。このごろ、とりわけつく、夏創に  
女性が社会を変え、政治を変える主役になるであろう一  
エイ世紀へ向かってーと思い始めています。その方向ではた  
らくたいと考えています。その点についていろいろ勉強したい、  
教えていただきたいと思ってます。

10月5日は 多分出かけられるだろうと思っています。(後略)



▶ あごう九州の三好さんから、お便りをいたしました。

<あごうれん>十周年

あめでとうございます。お目にかかるてもう一年、あの時は、元気もいい、層も厚い、れんのせにしっかり根を張ったグループとしてたくましさを感じました。続けるのに大変なエネルギーが必要ですが、続けることで得られるものは、それ以上なのでしょう。

さて、私は9月14～16日、産事を上げたばかりのくあごう鳥取の人達に会ってきました。発足のいきさつは月刊197号に声かけ人の前田さんが書いていますが、三名が現在のメンバーです。鳥取はれんとちがって保守的な土地柄だとか。学校に意見しただけで「近所から変人扱い。今年の国体岡崎県という事情もあったのでしょうか、原発反対の集合に出ただけで、公安当局から会社に「どういう人か」と電話があり何日も尾行されたし、信じられないような話を聞きました。でも彼女達はそんな事は意に介さず、「本の読み廻かせの会」「手作りおやつの会」などからはじめて、地道に活動を進めている人達ばかりです。もっと思つたことをそのまま言え、活動に結びつけられる場を作ろうと発足したそうです。まあこれからという意気に燃えた三人にはほほ笑かれて帰りました。

運営委員会はその他に、有藤さん、戸田さん(事務局)、桑原さん(柏)、福田さん、私(九州)、一日遅れで森川さん(下関)だけで行なわれました。私自身、運営委員会制度に疑問を感じていま

したが、多く同様の思いから、人数が少なくなっているのでしょう。でも今回鳥取の元氣い、はいの彼女達とめぐり会ったこと(あごうメンバーとして何ができるかと思っていたが、どんどん原稿送ればいいのねとすぐ2つ引き受けた)、有藤さんが「もうくあごう」は財政上からも無理かと思ったけど、あらゆる手を尽くしきってはいなないはないか、それから結論を出すべきだと思う」と言われ、再チャレンジの提案をされたことから、私なりに考えてみました。今まで委員会で決まったことも、事務局の人手不足等から実現しなかったり、新企画も1～2回で流れてしまったりで、東京から遠く離れ、事務局の様子も分からぬ季夏があれこれ諮詢しても現実性がないのじゃしようがないと思いました。でも考えてみると、実行を全部事務局に任せて、たまたまに原稿を送る程度だった自分に気が付きました。運営委員制度をあきらめる前に、手を尽くしきるか考え直してみよう。とりあえず、新企画「せせらぎ連載」(月刊終り1～2ページ連載)に積極的に取り組み、グループさがし、原稿依頼、取り立てまで毎月福岡からでも出せるくらいにやってみようと思っています。取材や原稿集めまで、地方にいる運営委員や地元がもっとやれば、月刊の誌面を自分達の思う方向に近づけることができるし…。れんの皆様もよろしく。

(あごう九州 三好久美子)

ア以人女性として初参加した4.カア。内藤美恵子さん。

## 『国連婦人の10年ナイト会議』報告会

「我々、同族から、初めて代表として一人の女性をナイトに送りました。世界にない文化と伝統と芸術を持っている、それを踏まえて、世界に訴えたということは素晴らしい」内藤美恵子さんをナイト会議に送り出す会>代表の挨拶である。

内藤さんは7/16と7/18の2回、7-7ミヨウアで日本におけるア以民族差別を訴えた。7/16は近代化が「日本女性にもたらしたもの」というテーマで、大阪の部落解放同盟の吉田和子さんらと共に。7/18は、世界教会協議会の「少數民族」の7-7ミヨウアだったが、植民地掠奪問題や日本の女性たちは被差別者とどういう連帯をしているのか、国際連帯はできないだろうかという質問があったという。

内藤さんは、ナイトで発表したレポートを再び読みあけたが、北海道開拓使設置により、ア以民族独自の言語、生活風習、文化が奪われたこと、基本的人権や参政権、民族言語化要求等を盛りこんだア以新法制定を求めていること等が中心。

佐吉屋の、家制度を研究している女性と一緒にになったが、日本人女性でさえア以問題をよく知らないこと、知らないんだからしょうがないというひらきなおりがあることに怒りを見えたという。また、質問に

応えて、内藤さんは、アイヌは男女の別なく人間として差別されている、まだ性差別までしていないとも語っていたが、どうなのだろうか。メキシコ会議の時に、有藤千代さんが、民族差別と性差別と、二重の差別に虐げられているインディオの女性たちのことを報告していた。

民族差別に目を奪われて見えないだけなのか、あるいは、自然と調和して暮らしてきたア以民族には、本当に性差別はないのだろうか。

おこら100号『均等法、派遣法そして…』の中に、白人女性を中心に広がりと深まりをもつてきたアメリカの女性学は、今、次期を迎えて、民族問題に真正面から向き合いつつあると報告

されていた。

ア以民族問題を、北海道に住んでいる私たちでさえ、よく理解しているとは言い難いのは事実だけれど、いつの日か、私たちの女性運動が、こうした広がりと深まりを持つようになりたいと願ってはいる。と「今までも連帯を求めていた」と願っている。

しかし、その道のりの遠さを、痛みと共に、あらためて感じさせられた報告会だった。

(細谷洋子・記)

今は、豊かさ故に子育ての難しい時代だという。

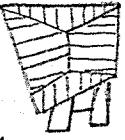
我が娘も、来年は中学生。たしかにハングリーな精神に欠けるようだ。何につけても、これは、というやる気が感じられない。

これから自主的に経験勉強を始めるだろうが、良い友達に恵まれるだろうかと、内心、穏やかではない。物を出せば出し放し、言われないと手伝いは始まらない。まだ、今は叱りつけるとソソイ動き出すのだが、それもいつまで幼くことやら。

僕さんは、下を向いて叱れるうちに基本的生活習慣をつけておけという。やはり、もう少し怒鳴り続けよう。習慣にはならないまでも、今の

うちに、洗濯のしきや砲Tの使い方は仕込んでおかなければ。

## 集会

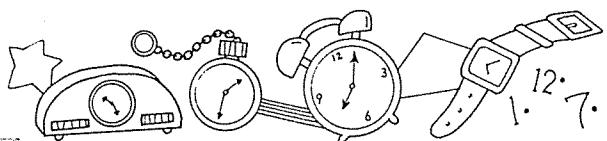


## 参加記

話が佳境に入ると、立っていた主催者側の男の人もメモをとり始めた。おもわず一人の父親の顔に返ったようだ。

この学歴社会の中では、つい、○變からではなく欲から、子どもに過大な期待をかけてしまう。

この言葉は、肝に銘じておかなければと思つた。(松平明美・記)



またPR!

「いま戦争を考える」  
連続講座 記録集  
できました!

B5判  
72ページ  
300円

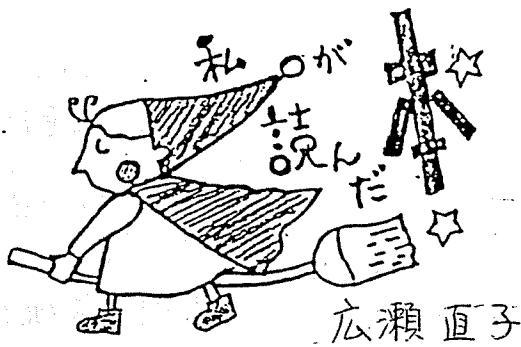


反戦講座をやってから3年余り。

やっと、記録集ができあがりました。ちょっと古くなった箇所もありますが、どれも今はつながる重要な問題ばかりだと思います。あの時も「黙っていれば」とんでもないことになる。なんとかしなければ」という思いで学習会をしていましたが、今はますます事態が悪くなっています。

是非、周りの人にもすすめて読んでもらいたいと思います。

(細田英理子・記)



広瀬直子

著者は一児の母、元傳記の女性ジャーナリスト。

○ 1983年2月、横浜で起きた中学生による「浮浪者」殺傷事件と円窓に取材し、まとめたものである。

逮捕時、少年達は、「ゴミ掃除でやつただけ」「こんなことで逮捕されるのか」と語ったといふ。中学生による「浮浪者」襲撃は、事件発覚の10年も前から、中学生にとっては“常識”になっていた、といふ。少年たちは「浮浪者」を“汚い黒い固まり”といふ意識においておらず、在日朝鮮人に對しても、露骨な差別意識をもつていて、自らは、学校から、やっかいもの扱いされていた少年たちである。

○ 少年院から出てきた少年は、「人を殺して…? わかんない」と答える。人を殺す、という自覚がない。

## やっと見えてきた 子どもたち

青木悦 著

あすか書房刊 1000円

ある話し合いの席で母親が言う。「生命の大いせつさを教えるしつけはどうにじぶらよいか」と。生命を伝えられない生活のありようを凝視する筆者。“生活崩壊”

「人が人として生きられない社会、人が人として認められぬ仕組みになってしまった社会を見つづける力をねらう」取材を通して、加害者も被害者も、社会から「切り捨てられた」存在であったことをつきとめる。そして、そういう社会もつくり出してきたのは私たちではなかったのか、と自ら問う。

著者は言う。「心と心をつなぎあわいく素晴らしい子どもたちにみたければ」と。淡々とした文章だが、人間の生きる力を信頼し、培い育みあわいくという著者の想いが確かな手ごたえで伝わってくる。

「人間を探す旅」民衆社刊 980円  
も是非、読んでほしい。

青木悦さんは10月26日、来れる。

## ☆ 指紋押捺を考える集い

ー在日韓国人・朝鮮人と共に暮してゆくためにー

- ・ 10月5日(土) 6:00 ~ 8:00 P.M.

・ 札幌市民会館(北1西1)

・ 講演 一般平善彦氏

(各地の活動の報告と今後の展望  
拒否者からのアピール)

・ 参加費 300円

・ 連絡先 在日外国人の指紋押捺問題を

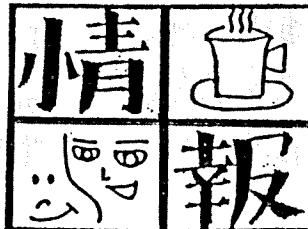
考える会

(TEL) 382-2706

## ☆ 青木悦さんを囲んで

「子どもたちの今を

語り合う会」



- ・ 10月26日(土) PM 2:00 ~

・ 北海道教育会館

(中央区南3西12 北向さ)

- ・ 記念もあります。 参加費 500円

83年2月、横浜で起きた「浮浪者殺傷事件」を  
丹念に取材し、その著書で「人間の社会は誰ひとりとして、はじき出してはいけない」と訴える青木悦  
さんをお迎えして、子どもたちの今を考えたいと  
思います。(連絡先 ひらひら 746-2801)

## ☆ ガレージ・フェスティバル

ーもうひとつの衣食住ー

- ・ 10月10日(木) 祭日

AM 11:00 ~ PM 4:00

・ 駅裏8号倉庫(北3西3)

・ 出店料 1000円

(スペースは置1帖分)

・ その他に...

<座談会>ゴミなし暮らしを  
する

<ガレージ・ライヴ>

<やれぱできる!修理実演>

<オモチャ病院>

<アフリカ難民救済センター>

## ☆ 国際反戦デー札幌集会

「戦争をかかえ込んだ現在

ー中国・アメリカ・日本ー

- ・ 10月20日(日) PM 1:30 ~

・ 中央区民センター

・ 参加費 300円

・ 主催 トマホークの配備を  
許すな! 反核北  
道行動



“北海道子どもの本のつどい”札幌地区合同報告会を終えて、11時に帰宅してから通信づくり。つまる睡眠不足と疲れて、タフさだけが  
どれだけの私もありなくダウーン。テレビの映画など見くさっていた連れ  
合いは、「寝ているから、3時に起きて」と頼んだら、「オレ、寝て  
ない」。「また今日も父子家庭か。サビシイナヤ」などと言われ  
つつ、ひたすら、10月5日に向けて頑張っています。

それにして、中1の娘が作ったキャベツの味噌汁より、小5の息子が  
作った大根の味噌汁の方が美味しいかったのは、いささかワクザリ  
な気持ち。

(細谷 洋子)